

会議録

会議の名称	令和5年度第4回 西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和6年1月29日 午後2時から午後4時まで
開催場所	エコプラザ西東京 多目的スペース
出席者	<p>【委員】 山谷委員、福田委員、小早川委員、平山委員、澤野委員、海老沢委員、市川委員、一方井委員、衣川委員、渡部委員、木村委員、田中委員、豊川委員</p> <p>【欠席】 植村委員</p> <p>【事務局】 白井みどり環境部長、菱川ごみ減量推進課長、加藤ごみ減量係長、本多清掃係長、岩崎主事</p>
議題	<p>(1) 西東京市ごみ排出量の実績について</p> <p>(2) 廃棄物減量等推進員の役割・活用の検討</p> <p>(3) その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 西東京市ごみ総排出量・ごみ原単位の実績【4月～11月の比較】</p> <p>資料2 東京都26市廃棄物減量等推進員の状況</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>(発言内容等)</p> <p>1 会長から開会の挨拶</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 西東京市ごみ排出量の実績について</p> <p>(2) 廃棄物減量等推進員の役割・活用の検討</p> <p>(3) その他</p>	

(委員からの主な意見)

会 長：皆さんお集まりいただきましたので、ただいまより令和5年度第4回西東京市廃棄物減量等推進審議会を開催します。本日の出席状況ですが、植村委員から欠席の連絡が入っています。今回の第4回審議会は令和5年度最後になります。

議題(1) 西東京市ごみ排出量の実績について

～ 事務局より配布資料の確認、資料1 西東京市ごみ総排出量・ごみ原単位の実績【4月～11月の比較】についての説明 ～

会 長：説明ありがとうございました。それでは委員の皆様からご質問、ご意見ございましたらお願いします。資料によりますと、ごみ量は順調に減っておりまして、多摩26市の減量順位などは、非常に良い状況で順位を上げているというようなところですね。多摩26市で4番目ぐらいというようなところでしょうか。非常に良い位置にあります。上位は、日野市の浅川清流環境組合にごみを搬入し、処理している小金井市、国分寺市ですが、この2市は、以前ごみの持ち込みについて周辺からの反対運動があったため、ごみの持ち込む量を徹底的に減らさなければいけない、ということになって減量の取り組みをしています。それに伴い、日野市も一生懸命に減量して、この3市が順位を上げているような状況です。西東京市もそのすぐ後につけているというのもすごいと思います。

委 員：こちらの数字を見ますと、令和4年度から令和5年度ということで、家庭ごみ、資源ごみが減っているということですが、これは人口により減っているものなのか、リサイクル率により減っているものなのでしょうか。

事務局：人口及び世帯については、令和4年度から令和5年度の方が増えている状況でございます。そのため人口、世帯によるものというよりも、ご家庭から出るごみの量が少なくなったということになります。

委 員：人口が令和4年度より令和5年度が増えているということでしょうか。

事務局：令和4年度につきましては205,829人、令和5年度206,156人ということと、あと世帯につきましては101,040世帯と102,093世帯ということでございますので、増加しております。

委 員：令和4年度というとコロナ禍でみんな家にいた時期だと思います。それでごみはすごく増えたというイメージがあるのですが、令和5年度については、比較的いつも通りに戻ったのかなというイメージで、その2、3年前のコロナ禍の状況と比べてどうなっていますでしょうか。

事務局：こちらにつきましては、前回、令和4年度の決算の資料として提出させていただきましたが、可燃ごみで申し上げますと、年度単位になってしまいますが、令和3年度が23,658トン、令和4年度が22,735トンということでだいぶ減ってきているような状況かと思えます。令和4年度につきましてはコロナ禍の余波というか、影響が残っているかと思えますけれども、令和5年度になりましてだいぶ減ってきている

ような状況でございます。

会 長：令和2年度に事業系ごみは、だいぶ落ち込みました。外出自粛やテレワークといったことで、会社勤めの方も自宅からオンラインで、ドンと落ちましたが、それが若干リバウンドの傾向が出ています。元には戻っていませんが、少しリバウンドし始めているという感じですね。

委 員：全体が減っていて、集団回収の方も減ってはいるようですが、集団回収に協力してくださっている団体数の増減はどのようなのでしょうか。

事務局：集団回収の団体数につきまして、大きなマンション等で新規加入の場合もありますが、基本的には減っているような状況でございます。これは集団回収にご協力いただいている団体の方々の高齢化などが理由としてございます。実際に集団回収を行う世帯の軒数が少なくなり続けられないというところがございます。

委 員：ちなみに、どのくらい団体数がありますでしょうか。

事務局：こちらの方、集団回収の団体数につきましては、1月10日現在で299団体ございます。大小ございまして大規模な集合住宅から小規模に10軒程度の皆様の方で集団回収をさせていただいているところがございます。

会 長：その登録団体の推移としてはどうですか減っているか。

事務局：少々前ですが、平成27年の10月の時点で368団体ございました。それからだんだんと減ってきまして現在で299団体です。ちなみに令和4年4月現在ですと312団体ということがございますので、かなり減ってきております。新しい戸建住宅ができて、自治会というかそういったものを組織するのが難しいと思いますので、新規で集団回収を行う団体については、増える要素が中々ないというところが現状でございます。

副会長：私の住んでいる地区では集団回収していましたが、やめました。昔と違いごみの収集が戸別になり、資源物も戸別になりました。集団回収をしているといくらか奨励金が発生します。金額は大きくないものの奨励金収入が入るのはいいと思うんですけど、それを管理する通帳の引き渡しなどのやりとりが今の若い方に大変なようで、面倒だったという方の意見が多く、私はやめたくなかったのですが、私たちの団体は無くなりました。

事務局：今副会長がおっしゃられたとおりで、集団回収につきましてはご存じの方も多いと思いますが奨励金を出させていただいております。年間の回収量について、集団回収団体、回収業者、ごみ減量推進課で集計を取っておりますけれども、回収量に応じてキロ7円ということで、お支払いをしております。使用用途につきましては特に制限を設けてはございませんが、各団体の皆様の自治会費など、そういったものに使われているとお聞きしております。

会 長：集団回収は品目としては古紙が中心だろうと思うのですが、新聞、段ボールなどその品目ごとに分けて統計を取っているのか、それとももう紙はひとまとめにしてい

るのでしょうか。

事務局：品目につきましては、新聞、雑誌・雑紙、段ボール、古布の4種類になります。それぞれで、その場で集団回収業者の方に測っていただいて、団体、回収業者、市のそれぞれに伝票を提出いただいて、各々で年間の回収量を確認した上で、奨励金と委託料をお支払いするという事になってございます。奨励金のキロ7円というのは全て4種類と同額になっています。

委員：西東京市の市民の方からこの分別が難しいという声も耳に入っているんですが、不法投棄が増えているとかをカウントしているのでしょうか。

事務局：不法投棄の問い合わせにつきまして、正しい件数の把握はしておりませんが、そういった集計はとっております。こういった不法投棄があったということですが、西東京市全域は基本的に戸別収集になっていますので、かなり件数は少ないと感じております。また、不法投棄と言いますか、道路上に落ちているものありまして、その場合は西東京市では道路課という部署に通報が行きまして回収している場合もございます。

ただ、一部ですが集積所を引き続き使用している場所や、個人所有の土地に不法投棄されてしまった場合には、基本的には持ち主の方が処理していただくようお願いしていますが、ごみ減量推進課で伺って、不法投棄されたごみの中の方を見て、どなたが出したか特定できるかどうかということまで行っています。

基本的に不法投棄が大幅に増えたという印象は特にこちらの方では感じてはおりません。ただ、やはり不法投棄が全くないということではございませんので、禁止の看板などを設置して注意喚起をし、不法投棄を無くしたいと考えております。

会長：戸建て住宅については戸別収集になると注意もしやすくなりますが、問題はやはり集合住宅になります。集合住宅が全てというわけではないですけども中には排出マナーが良くないごみが出ているというようなことがあると思います。

委員：集合住宅ですと管理人がいるところもないところがあり、そういつでも出せるというところと曜日によってしか出せないところというのがあるので、市民の方のマナーということに結局つながってしまうと思います。

委員：私の住んでいるところは、24時間いつでも捨てられる大型の集合住宅に住んでいます。住宅では、高齢で男性の方がすごく分別をやってくださる方で、その方は頑張っ一人でやってらっしゃいます。その方が辞めたらどうなるのだろうというくらいの行動力なんですけど、その方一人に分別させてはだめだという住人の方の考えで、貼り紙をして分別をきちんとしようという意識を持っています。一応、優良のごみ捨てをしていますというマンションに指定されていますが、それはその方のおかげ、という状況です。

今の問題で思ったのですが、ごみ原単位が出されて数字が減っているという現状は本当に喜ばしく思っているのですが、家庭系ごみにつきましてせっかくデータを出しているのにその内容が見えないと思います。例えば、家庭ごみの中の可燃ごみに汚れたプラスチックが入っていたり、ちゃんと洗ってプラスチック容器包装類に入れている方もいるというところから、リサイクルは進んでいるのか、または費用がかかるからリサイクルはそこまでしなくても良いのか、また分別がちゃ

んと進んでいるのか、分別が進んだとしたら戸別収集にしたことが影響しているのか、というところがこの資料からだとも中々見えないので、そういうところも出していただきたい。

事務局：今、委員からお話いただきましたとおり、こちらの方につきましては、柳泉園組合で、定期的に家庭ごみの中の可燃ごみ、不燃ごみにどういったものが入っているかという組成分析をやっておりますので、折を見てご報告させていただきたいと思います。

議題(2) 廃棄物減量等推進員の役割・活用の検討

～ 資料2について事務局より説明 ～

会 長：それでは皆さんよりご質問、意見ございましたらお願いいたします。推進員をおつとめされている副会長からお聞きしなければならないですね。

副会長：他市の状況を見ましたら自治体で出ていたり、いろんなところでやっているとありますが、その中で武蔵野市は実績がゼロとありますが、隣の市なので、今日は資料を持ってきてみました。武蔵野市では自分たちでごみの減量を目指して地球にやさしいまちづくりということで、ごみ減量で必要に応じてコンポストだったり、ベジタブルガーデンだったり、お茶碗のリユース、いろいろ取り組んでいます。せっかく行っているからには、内容を記載した方がよく、ゼロというのはもったいないと思います。

私の担当している地区はありがたいことに一戸建てが多いのでわざわざ踏み込んで確認したりすることは無いですが、戸別収集になってからだいぶきれいになりました。風でかごが飛んでいたとか、そういうことは結構多いけれども、プラスチック容器包装類などは戸別になってから、中を洗うようになってきれいになっていると思います。ペットボトルなどもそういう意味では前よりだいぶきれいになったと思います。私も月例の報告書を書くときには一回りして、他の方とは見比べられないので、自分なりにこんな感じですか、次の収集される方にはこういう意見や良かった、悪かったとか、感謝も含めて、報告書を書くようにしております。

また、今は使用しなくなった資源物集積所の跡地利用についてもお話ができたと思います。この前のE C O羅針盤に掲載されていたのは貸し出し自転車を置いたりするなど、知恵を絞ってやっているみたいでして、そんなに広い場所ではないけど、ちょっともったいないな、と感じながら回って歩いています。

委 員：経験が浅いのですが2018年から廃棄物減量等推進員をやっています。不法投棄などがあるかないかを見て、市へ連絡をするというのが主な仕事で、地域をひと回りするようにしています。戸別収集になってからは、ほとんど不法投棄も無いですし、ひどいごみが出されているということも無いのですが、東伏見駅を通過して住宅地に入ってくるような通りで駅前ではないのですが、駅前で買ったと思われるジュースなどを、飲み切って畑のあたりでポイ捨てされたようなごみが散見されているので、そういうことを報告するようにしています。

委 員：コロナ前には会議が開かれていて、今は開催がないということですが、推進員の

方々は会議があつてよかった、開かれたら良かったのにといい、そのあたりの実感はいかがでしょう。

副会長：あまりそういったところはないと思います。うまく回っているようですので、高齢者であっても、推進員として見守る活動は一つでも二つでもできることはあります。会議で皆さんの意見を聞きたいですけれども、今のところ、まだコロナも完全にゼロになっているわけではないので、今は自分なりに模索しながらやっている状況です。開催がないのであれば、資料など配布物などを送っていただき、いろいろな事例があるのであればとても勉強になると思います。

私の担当地区も不法投棄はほとんど無いです。地区内に畑が多いのでたまにですが、畑の真ん中にドンと置かれていることもあります。そのようなことがあれば必ず報告書に書くようにしております。他の方がどのように報告書を書かれているか、ということについてはアドバイスをいただくと勉強になります。

委員：以前の審議会の中で推進員のことについては何度かご意見等が出たかと思ひます。長年、推進員をしている方の表彰についてもお話があつたと思ひますが、その後、表彰式というものは西東京市で行つてゐるのか、社会的な信用をつけることで、協力してくれる人数も増えるかもしれないということではなかつたかと思ひます。

事務局：現在、何年か推進員をやつていただいたから表彰するということは特に行つておりませんが、ご意見としていただきたいと思ひます。実際に推進員を辞められる方でお聞きした理由としますと、コロナの関係で集まりが無く、推進員間の情報の繋がりができなかつたか、モチベーションを保つのが難しいというお話をいただきました。表彰についても、そのような場を設けるといった形もあるかと思ひます。

会長：他市のことになつてゐますが、推進員が自治会等から推薦されてくれることが多いようですが、引き継ぎがうまくいかないということもあるのかと思ひます。熱心な推進員の方はいろいろ活動をしていただくけれども、中にはうまく前の推進員の方との引き継ぎがでず、何をやれば良いのかわからないということもあるようです。推進員としての取り組みにかなりの落差があるというようなことを聞いたことがあります。年に1回は推進員に集まってもらつてどうということをお願いしたいか、あるいは、ベテランの推進員の方からこのような活動を行つてゐます、というお話をさせていただくといい、推進員の研修というか講習というか、そういったことを行うことは非常に重要なことではないかと思ひます。

委員：地区ごとに必ず推進員の方は置かれてゐるのでしょうか。

事務局：それぞれの地区がありますが、実際はかなり欠けてゐるところがござひます。地区に比較しまして45名程度だつたと思ひますが、推進員のいないところの方が多ひ状況でござひます。そのため、お願いができる方がいればお声がけさせていただくようにしてゐます。全ての地区に配置するということは難しく、なかなか推進員になつていただける方がいらつしやらない、というも現状でござひます。足りないところにいかにして増やして配置するいくかというもごみ減量推進課の役割でありませんが、何かアイデアがござひましたら、お願いできればと思つております。

委員：住んでゐる家が幹線道路のそばですが、植込みのところに不法投棄が多いです。そ

ういうのを推進員の方が見ていただいたりしてくれているのではと思っていましたが、自宅の地区は推進員の方がいないのではないかと思います。また不法投棄が目について、鍋が置いてあったり、ごみの入った袋が敷地の中に置いてあったりとか、そういうこともあります。ですから、そういうのを見回ってくれる方がいないのかなと思いましたが、質問しました。

会 長：植込みのペットボトルなどは、車から捨てられるというのが多いですね。推進員の方々にも参加していただいて一斉清掃、クリーンキャンペーンなどで、植込みなどの不法投棄のごみを回収するというようなことをやるのも良いのかな、という気がします。

委 員：どこに相談したらよいか分からない相談窓口なので、町々別に一人ずついらして、いろいろな役割を持ってくださっていただくことが心強いと思うのが正直な感想です。今回の次第にあるように「役割・活用の検討」とありますが、人数が少ない中でさらに役割を増やしたら、より推進員になる方がいなくなってしまうのではないかとこのところも心配になりました。

思いとしては、例えばごみが戸別収集になったので、ごみから見る世帯での困りごと、ちょっと気になることがあったときに、ごみが出るのが少ないな、とかもしかしたら分別ができずに家に溜め込んでしまっているのでは、という形でお隣さんが高齢者の方だったら、包括支援センターに連絡するきっかけになるのではないのでしょうか。また怪我をしているみたいで、ごみ出しをしにくそう、といったことであれば社会福祉協議会の助け合い活動で、無料でゴミ出しをしてくれる手伝いしてくれるというボランティア活動があるのでそこに繋いでみよう、という役割をしていただけるとありがたいなと思っています。ただ、役割をお願いしてしまうと担い手の方が増えないということでは、中々難しいんですけども、ぜひ連携をお願いさせていただけたらなと思いました。

事務局：ご意見いただきましたことも含めて、推進員の方々にこういったご報告をいただければこのような対応ができます、といったことを増やしていきたいと思っています。現在、ごみ減量推進課では、市内の各5駅、それぞれ年に1回ずつなんですけれども、早朝の清掃活動、駅周辺のポイ捨てと路上喫煙を抑制するために、まちの美化キャンペーンを行っております。このキャンペーンにも推進員の方にご出席いただくことも考えています。

委 員：委員のおっしゃることを私もよく分かりますし、それが理想的とも思います。ですが、そこを最初からしてしまうと、繊細な部分が多くて、いろんな思いを持って動かれている推進員の方がいると思うので、推進員同士で、まず情報を共有し合える場所が年1回だと少ないと思います。そういう場を設け、推進員同士の横のつながりを持てるようにしたり、市の職員の方と話し合える場面が多くなると、心の支えになると思うので、もう少し気楽にできるのではないかと思います。そうすることで、だんだん委員の方がおっしゃっていただいたようなことができたと思います。推進員の方がすごく繊細な部分に関わって、悩んだりするということは多く、そういう意味でなかなか推進員の人数が増えないという原因として考えられると思います。まずは会議の機会を多く設けてはと思います。

会 長：推進員としてのノウハウの伝承はすごく重要だと思います。

委員：前回の審議会の時に廃棄物減量等推進委員というものがあるというのを知りまして、検索をしてどんな形で募集されているのかな、というのを市役所のホームページから調べました。まず一月の謝金が3,000円で募集しています、という内容でありましたが、マニュアルといったものの掲載はありませんでした。推進員をやってみようかと思った時に、その活動内容についてわかりづらい。どれくらいの活動量をどれくらいの頻度でやるのかということや、毎月報告書を書いてくださいということをごみ減量推進課の方から言われて、できる範囲でいいですよというような感じになっているのかな、と思いますが、それでは、わかりづらいと思いました。3,000円の謝金ということで考えると、一般的にですけど、何か困ってそうだから、こちらに連絡するように手配したりなどの面倒というか、ごみの問題はとても繊細で、人の家のごみのことをとやかく他人が言うといったことは、あまりいいイメージのことではないので、活動内容としては難しいかなと思います。推進員ではこんな取り組みをしてこんなものです、といったことや、参加してもらおうとどんなメリットというか、楽しいことがあるのかというイメージがわいてこないです。推進員をどこで募集しているかについて、私も前回の審議会で知ったくらいなのでわかりづらい。

あと先ほど委員がおっしゃったように植込みに不法投棄があった場合、私が例えば推進員だったら自分で回収するわけではなく、私がどこに電話し、取りに来てくださいということや、また農地に不法投棄されている際に、その農家の方にちょっと預かってもらって市の方に電話していただきと指導するのか、そこまで推進員の方がやるのか、もしくは見守って監視してもらうのか。その時どこまでやるのが求められているのかもわからないということもあります。

他には腕章みたいなものがあるのでしょうか。見回りしたときにごみがあって対応する時に、周りの人はその方が推進員だってわからないですね。推進員は孤独、みたいな話もあったと思いますが、確かにちょっとこう使命みたいなものもあると思います。PTAの地区委員とかだと腕章を渡されて、見守り週間に腕章して地域を歩くというようなことがあります。これを見て保護者がパトロールしている認識を持ってくれる。歩くことでパトロールになっているからと理解してもらえると、そういう意味合いがあります。腕章もないっていうことだと、曖昧な感じがして、推進員を今のまま増やしたいっていうのは、中々難しいのかな、と私は思ったのですけども、一月に何回くらい回るんですか。

委員：私の場合は一週間に一度か二度、腕章をつけていたり、言われたら出せるように持っています。皆さんがご指摘のとおり、あんまりジロジロと見ていると、ただの怪しい人になってしまうので、危ないところや、いつもダメなところみたいことを、パッと見て判断というような感じになっています。報告書に書いて、今はメールで送るようにしていますが、その後次の月にもう1回見に行くときにはもうきれいになっているので市の方がきれいになっているのか、ご近所の方がきれいになっているのか、そこまでわからないですけどもきれいになってくるので、2ヶ月も3ヶ月も不法投棄のものが置きっぱなしになっているっていう例はあまりないという感じです。

委員：報告書はどれくらいの量を書くのでしょうか。報告書では一応、8日分書けるようになっていますが何回以上は見回ってくださいますかというのがあるのでしょうか。

事務局：何日必ず回ってください、何日以上でないといけない、ということまでは中々申し上げにくいところではございます。ですが、委員の言われるとおりに推進員によっては、たくさん書いていただく方もおられ、回っていただいて、そのところで特に異常なしという形の報告をいただく方もおられます。

他市の事例になりますけれども、推進員のしおりを作成しているところがございますので、参考にしながら、まとめて推進員の方々にお渡しできるようにしたいと考えています。

副会長：私が推進員になってから様式が変わったのは1回だけなので、様式を変えるというのは難しいのかなと思っています。書き方として自分なりにその時によって活動日、それから見回りとか書いています。私が中心にしているのは清掃員の引継ぎとか、それから気づいた報告事項についてを結構書くようにしています。報告書をごみ減量推進課に提出することによって内容を見ていただき、不法投棄もあればここに書いたりしております。

会長：委員のお話が大変参考になりました。不法投棄とか分別が非常に悪いことについて指導するのはやはり行政の役割ということで、推進員の方の役割に期待することとしては状況の把握になります。まず第一に、行政としてはどこが非常に乱れていて、不適正な排出や不法投棄があるかということ把握して、指導対応をするということになると思います。集合住宅の場合、管理人がいないようなところでは起こりやすいので、所有者や管理会社の協力を得ながら行政で改善に取り組むということになると思いますが、どこの物件が乱れている、というようなことをまず把握する必要がありますので、推進員の方の協力が大事です。

あと先ほども言いましたけれども、クリーンキャンペーンや清掃活動について行政が中心になって、事業者、市民ボランティアなどの協力を得て行うと思いますが、推進員の方々がその時も参加してに協力をしたり、また環境フェスティバルなどの環境イベントを行政が開催するという時も出向いて、その準備などの協力をするというようなことが主な役割ではないかと思っています。これはもう典型的な協働で、市民と行政の協働事業の中核だと思っています。だから非常に重要な役割を担われていると思います。

議題(3) その他

事務局：本日で令和5年度の廃棄物減量等推進審議会は最終回になります。委員皆様の任期は令和7年6月までとなりますので、来年度もまたよろしく願いいたします。

また、次回の審議会につきましては、今のところ、7月開催を予定してございます。また来年度も4回開催予定でございますので、開催月等については会長、副会長とご相談させていただき、開催内容について決めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員：次回の会議がしばらく無いとのことなので、最近、非常に感じている問題点について委員の皆さんに考えていただきたいことがあります。私の家の周りは戸建なので、カラスがごみを荒らすのが減らなくてすごく汚い状態で散らばって、見るに堪えない感じのところがあり、近所であそこの家には言ってあげた方が良く、と言ったりしています。私も一回カラス被害にあってしまって、その後に蓋つきのごみ箱のような大きいものを用意して、それに入れて必ず蓋をするようにしたらカラスの

被害は無くなったので、全部の世帯がそういう対策をできるようにするにはどうしたら良いのかを、悩みに感じています。特にここ2、3か月、カラスがすごく多くなる時期なのか散らかっており、ごみ収集に来た業者さんが掃除してくださり、申し訳ないところがあるので、市の方でも何か決まりみたいなのをできるのかわからないですが、一つ大きな課題かなと思っています。

事務局：カラス被害につきましては戸別が始まる以前の集積所の時からやはり問題になっていると思います。戸別収集が始まりまして委員もおっしゃったとおりですが、バケツがかなり効果的かと思っております。ネットもありますが、カラスは頭がいいので下から引っ張り出したりする時もあります。

あと散らかっているものについては収集の作業員の方が清掃するように指示を出しておりますので、きれいにして回収を終えるということにはなっております。全家庭で必ずバケツに入れていただきたいということは、できればそういった対策でカラスにつつかれないようにしてください、ということのお願いはできますが、必ず絶対それを守らなければいけないというのは難しいところです。

それとごみ減量推進課でECO羅針盤という広報誌を発行していますけれども、その中でカラス被害が多いので、対策の方をとっていただきたい、ということは何度も掲載させていただいています。しかしあまりにもひどいという時にはお声掛けをさせていただくこともございますので、より周知していきたいと思っております。

委員：推進員をしている中で目立つ問題の一つがカラスです。繁殖の時期があって、狙われる場所も決まっている。そこを一回きれいにして該当宅にカラスが狙っていることを伝えることで、そのお宅で方策を考え、その後被害がなくなったりする。市役所からも何回もECO羅針盤を通して周知いただいています。カラスは頭がよく、一度この家が狙えると思うとまた狙う。それをなくすことが一番だと思っております。

会長：湘南の風光明媚な保養所等が多くある葉山町で戸別収集をやっているのですが、蓋つきの箱でごみを出してくださいというようにお願いをしています。さらに最近は蓋を開けずに中が見える箱があり、それを推奨しています。収集作業員が箱の中にごみがないと分かれば、蓋を開けずに次に行け効率が上がります。

また、近隣の藤沢市も戸別収集をやっていますが、箱の中に入れて出しています。湘南界限では箱に入れて出すのが一般的になっています。東京23区でも戸別収集に切り替えたところもありますが、意外と箱を使っている自治体はないです。カラスが多く出る地区とそうじゃない地区の違いもあるかもしれないし、周りで箱にごみを入れている人があまりいないと、うちも箱はいらない、という感じにもなるかもしれません。地区によってだいたいが対応が違うという感じがします。

特に他に意見等無いようですので、以上をもちまして本日の審議会を終了したいと思います